

美しきロスマリン~珠玉の名曲集コンサート

# 劉薇 ヴァイオリンリサイタル

~ 劉薇後援会 10 周年記念 ~

## 艱難辛苦の栄冠

1986年、ヴァイオリンの志を抱いて中国乙女が来日し大変な苦労をされているのを知ったのは私の娘からである。日本語も稚拙で、右も左もわからない異国において、食うや食わずの勉強はまさに艱難辛苦の極みであったであろう。私はそれとなく応援し始めた。思った通り劉薇さんの向学心とその努力は比類のないものであった。その結果、日本で数少ない音楽博士号を取得され、演奏でも第一線にのし上がった。

数年間が過ぎ大学同窓会のアトラクションとして劉薇さんに演奏をして貰ったところ万雷の拍手と熱狂的な支援者が現れた。それを機会に劉薇さんの知人にも話しかけて劉薇後援会を発足させたのは2001年10月1日である。十数名の幹事さん方々も寸暇を惜しんで後援会の発展にご努力を頂いた。特に音楽学者の村井範子さんのご協力は大きかった。クラシック音楽界で手弁当による後援会を持っているのは他に聞いたことがない。

光陰矢のごとし、今回劉薇後援会設立10周年記念コンサートを盛大に開催するに至ったことは感無量である。一層の飛躍を目指して現役員の方々に、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

元後援会会長 浅井一蓮

## 音楽を通して人々と出会う

わたしは中国の音楽大学を卒業後すぐに母校に残って、ヴァイオリン教師となりました。さらに、音楽の勉強で外国に行くたい一心でありました。ヨーロッパへの路はあったでしょうが、日本を選んだのは運命的な「縁」というものなのでしょう。

すでに来日して25年の日々が経ちました。この25年間、苦しみに泣いた日もあり、たびたび逃げ帰ることを考えたことも多々ありました。多くの日本のみなさま及び劉薇後援会の方々のご支援をいただき、それが心の支えなり、さまざまな困難を乗り越えることができました。音楽の研鑽を日本でできたこと、そして音楽活動を通じて人々との交流の輪を広げられたことは本当によかったです、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。今後も、絶えず努力をし、音楽を通じて日本と中国の国境を越えて友好の架け橋につとめたいと決意し、日夜万進して参ります。どうぞ、今後とも相変わらぬご支援を心からお願い申し上げます。

今年、劉薇後援会は10周年記念ということで、「これまでの10年」をふりえり、「これからの10年」への新たなスタートに向けて、記念のリサイタルを開催できることは至上の喜びであります。今回のプログラムはフランス音楽の頂点を極めたセザール・フランクのヴァイオリンソナタ、そして、どなたにでも愛される珠玉の名曲集と考えました。みなさまに喜んでいただけるように、名演奏にもなりますように、全力を尽くして演奏いたしますので、どうぞご期待ください。

音楽博士 劉薇

## Violin 劉薇 リウウ・ウェイ

中国蘭州(シルクロード)出身。西安音楽学院ヴァイオリン科卒、同音楽大学ヴァイオリン科教師を勤める。86年来日、99年博士学位論文『ヴァイオリニスト・作曲家としての馬思聰研究』で東京芸術大学より音楽博士号を授与される。日本各地、米国カーネギー・ホール、北京中央音楽院ホールで演奏を行う。日本音楽財団より1736年製名器グアルネリ・デル・ジェスが貸与され、馬思聰ヴァイオリン作品 CD3巻と名曲集1巻を発表。日中音楽文化交流の使者として国内外で演奏を重ねる。演奏活動と同時に日本各地で講演(文革風の中での音楽経験)も多く行い、テレビやラジオ、新聞各紙で紹介される。NHKホール「オリンピックコンサート2008」で新日本フィルハーモニーと協演。ドレスデン国立歌劇場管弦楽団メンバー、アムステルダム・ロイヤルコンサートヘボウメンバーと室内楽コンサートで協演。'07アイルランドコンサート、'08スペインコンサートツアーを行う。'09年浜離宮朝日ホールにてリサイタルを開催、大成功を収める。5枚目CD『日本の響き~名ヴァイオリン作品集』発売。'10年中国江南(杭州)3都市コンサートツアーを行う。'11年3月中国貴州省公演や弦楽四重奏結成コンサートを行う。今秋、シルクロード新疆、蘭州コンサートツアー、10月広州芸術祭・国際演芸交易会招待演奏など幅広く音楽活動を行う。現在、共立女子大学国際学部で講義「アジア論~中国の芸術」を担当。



## Piano 椎野 伸一 しの・しんいち

東京芸術大学音楽学部を経て、1981年同大学院修了。この間「安宅賞」を受賞、芸大オーケストラと協演。谷 康子、ヴァレリア・セルヴァンスキーの各氏に師事。1983年東京イノホールにてデビューリサイタル開催後、東京をはじめ全国各地でリサイタルを行う。また、東京交響楽団(指揮 秋山和慶)、東京シティ・フィル等とベートーヴェンの「ピアノ協奏曲第1、3、4、5番」などを協演。1996年にはピアニスト高澤ひろみ氏と「グラン・デュオ」を結成し、以後東京紀尾井ホールにて定期的にソロリサイタル・デュオリサイタルを開催している。ソロ活動と共に、内外の著名な演奏家と数多く共演し、室内楽、器楽・声楽のリサイタル伴奏、CD録音、音楽祭への参加、またNHK-TV、FM放送出演など、その活動は多岐にわたる。現在、東京学芸大学教授として後進の指導にもあたっている。

## Violinist Liu Wei/CD Album

馬思聰 ヴァイオリン作品 Vol.1 (1999年)

馬思聰 ヴァイオリン作品 Vol.2 (1999年)

馬思聰 ヴァイオリン作品 Vol.3 (2004年)

美しきロスマリン  
~珠玉のヴァイオリン名曲集 (2004年)

日本のヴァイオリン作品集 (2009年)



馬思聰ロマンの真骨頂にふれる初期の一大作品。協奏曲は博士学位審査演奏会のライブ録音、第2楽章「玉昭君出塞」の悲話は感動の涙を誘う。東京芸術大学フィルハーモニー、指揮ジェームス・ロックハート、ピアノ椎野伸一



初期から中期の作品を中心に収録。流麗な叙情性と輝きのある演奏が、馬思聰の中国的要素と西洋近代和声との融合を魅力的に表現。1999年「クラシックベスト10」、「レコード芸術」誌厳選盤。ピアノ椎野伸一



馬思聰遺族から託された晩年の自筆譜を判読、世界初演を行い、作曲家の晩年未公開作品に光をあてた貴重なCD。日本音楽財団所有名器グアルネリ・デル・ジェス「ムンツ」(1736)使用。ピアノ椎野伸一



知性と感性、類稀なる技術と透明感ある音色、情熱感あふれる劉薇の演奏は西洋音楽作品の解釈においても技量を発揮。日本音楽財団所有名器グアルネリ・デル・ジェス「ムンツ」(1736)使用。ピアノ椎野伸一



文化大革命を乗り越えてきた劉薇が、日本在住20年以上の成果を結実させたアルバム。運命的な符合を感じさせる日本人作曲家たちの作品を選びすぐってレコーディングした最新アルバム。ピアノ椎野伸一